

「熱帯農業研究」原稿作成要領

1980年8月4日制定
2020年10月5日改訂

A. 論文原稿（研究論文・短報・総説・情報・資料）の作成要領

[1] ページ設定

A4 サイズ横書きとする。上下左右に 30mm の余白を取る。明朝フォントで文字の大きさを 12 ポイント、1 頁 25 行、1 行 35 字程度とする。原稿の左側余白部に頁毎に各ページについて 5 行毎の通し番号を、用紙の下端部中央に頁数を記入する。

[2] 記述構成

原稿は表題、欄外見出し、著者名、所属機関名と所在地、要約、キーワード、英文表題、ローマ字表記による著者名と所属機関名および所在地、英文 Abstract、英文 Keywords、原則として緒言、実験材料および方法（または方法）、結果、考察、謝辞、引用文献、図表、図表の表題一覧の順で構成する。緒言の書き出しは頁を改めてはじめる。大項目（緒言、実験材料および方法、結果、考察、引用文献など）の見出しは中央寄せ太字、中項目は左寄せ太字とする。小項目を設ける場合には左寄せ標準とする。

表題と欄外見出し

表題は十分に内容が分かるようにかつ簡潔に書く。表題は太字。英文表題では、前置詞と接続詞を除く単語の頭文字を大文字にする。欄外見出しは 30 字以内、太字にしない。表題の頁に論文種別、表題、欄外見出し、著者名、所属機関、責任著者のメールアドレスを明示する。

著者名

和文（漢字または仮名）での表記は姓名の順とする。ただし外国人の場合はローマ字でもよく姓名の順は問わない。著者が 2 名以上の場合には「・」で区別する。ローマ字での表記は名姓の順とし、姓は大文字とする。著者が 2 名の場合は and でつなぎ、3 名以上の場合にはコンマ「,」で区切り、最後の著者名の前に and を入れる。責任著者を「*」で示す。（例：山田太郎・田中一郎*, Taro YAMADA and Ichiro TANAKA*）

所属機関名と所在地

所属機関名、郵便番号、所在地の順に記載する。英文ではイタリック体とし、所属機関、所在地、郵便番号、国名の順に記す。

要約

研究論文には和文要約（700 字以内）と英文要約（240 語以内）を一段落でつける。総説、情報、資料には要約をつけなくてもよい。短報には要約をつけない。

キーワード

研究論文、総説、情報、資料のキーワードは 6 語以内、短報は 3 語以内とする。表題に含まれない単語が望ましい。コンマで区切り五十音順に配列する。ローマ字で始まるキーワードは日本語の後にアルファベット順に配列する。英文 Keywords は頭文字を大文字にしてアルファベット順に配列する。

動植物名の表記

動植物名には標準和名を用い、学名は国際命名規約に依拠してイタリックで示す。英語以外の現地語方名などは小文字イタリックで表記する。物質名を省略して表記する場合には初出箇所正式名称を示し、括弧内に省略形を示す。

単位の表記

国際単位（SI 単位）系（付表参照）を用いるが、SI と併用されるが SI に属さない以下については使用できる。

時間：min（分）、h（時間）、d（日数）、week（s）（週数）、

month（s）（月数）、year（s）（年数）

角度：°（度）、′（分）、″（秒）

体積：L（リットル）

質量：t（トン）

面積：a（アール）、ha（ヘクタール）

単位は立体文字（ローマン）で記し、斜体文字（イタリック）にせず、英語複数形の s やピリオドなどは付けない。数値と単位記号との間は 1/2 ~ 1 字分の空白を置く。

数字の桁数が多い場合には、3 桁ごとにコンマによって区切ってもよい。

複数の単位の積で表される組立単位は、各単位を積の記号（・）で結びつけて表す。（誤解する恐れが無ければ積記号は省略してもよい。（例 N・m, Nm）

複数の単位の商で表される組立単位は、負の指数を付けて表す誤解の恐れがある場合にはスラッシュ（/）の記号を使用してもよい。負の指数が付く単位が複数ある場合に商記号を用いて表す際はそれらを（ ）の内にに入れる。

SI 単位でないものが混じる場合は、/ を使う。（例 kg/人、円/人）

接頭語は 1 つしか使用できない。（例 mg・cm² → 10g・m²; mμF → nF）

謝辞・脚注

謝辞をつける場合には考察の後に配置する。助成金などの外部資金については謝辞に記す。脚注をつける場合には、本文中に当該箇所を 1) 2) 3) … の上付で明記し、引用文献の前にまとめて脚注を記載する。

引用文献

本文中で文献を引用する場合は、著者名と発表年を西暦で記す。著者名を括弧内で表記する場合、著者が 2 名の場合の外国語文献は著者名を and でつなぎ、日本語の場合は「・」を用いる。3 名以上の場合には外国語文献は「筆頭著者 *et al.*」、日本語の場合は「筆頭著者ら」とする。著者名が括弧外での表記の場合、著者が 2 名の場合の外国語文献は著者名を「および」でつなぎ、日本語の場合は「・」を用いる。3 名以上の場合には「筆頭著者ら」とする。複数の文献を同時に引用する場合は発表年の順とし、セミコロン「;」で区切る。

例：Yamada および Tanaka (2012) は…

Williams ら (2001) は…

田中・山田 (2012) は…

田中ら (1985) は…

… (山田ら, 2012)

… (Williams *et al.*, 1996)

…(Yamada, 2012).
 …(Williams *et al.*, 1996; Williams and Johnson, 2001; Williams, 2002; 2003).
 … (田中・山田, 2012)

引用された文献はすべて文末の引用文献リストに列記しなければならない。日本語の文献であっても文献の配列順序は第1著者名のアルファベット順に従う。第1著者名が同じ場合は単著を最初におき、そのあとは第2著者名以下のアルファベット順とする。すべての著者名が同じ場合は発表年の順とする。著者名が同じで発表年も同じ場合、発表年のあとにアルファベットを付して2000a, 2000bのように区別する。著者が3名以上のとき、第1著者名が同じで発表年も同じ場合には、第2著者名が異なっている場合、年にアルファベットを付けて区別しなければならない。和文英文のいずれでもない文献は、(in Vietnamese with French summary)などと付記して言語を明示する。受理されたが出版されていない文献には“in press”と付ける。

引用文献リストの表記

引用文献リストの例:

研究論文・総説・情報・資料について

[i] 学術雑誌・定期刊行物・要旨集など

著者名 年. 論文タイトル. 掲載誌(省略形). 巻:頁-頁.

例: Richter, M., H. George, and G. W. Turner 2012. Effects of summer pruning on winter growth of atemoya cv. Jeffner. *Jpn. J. Trop. Agr.* **5**: 233-238.

Williams, A. L., C. Johnson, and J. Smith 2012. Traditional agriculture in the Philippines: A progress report. *Trop. Agr. Develop.* **45**: . (in press)

Yamada, T., T. Endo, and I. W. Harper 2012a. Yield components of rain-fed paddy fields in Northeast Thailand. *Hawaii Agr. Exp. St. Tech. Bull.* **179**: 1134-1142.

片山克己・清治 有 2012. ラオスにおける小規模イネ種子生産システムの構築. *熱帯農業研究* **2**: 97-103.

山田太郎・田中一郎・I. W. Harper 2012b. オクラから分離した大豆タンパクと分離法. *日本食品工業学会誌* **40**: 32-33.

Nguyen, T. V. 2009. Effects of paclobutrazol in off-season flower induction of 'Kho qua xanh' durian. Proceedings of the 13th Symposium on Fruit Production in the Mekong Delta. Hue University (Vietnam) Dec. 15-18, 2008. pp.10-12. (in Vietnamese with French summary)

[ii] 書籍

書籍の主著者(全体を引用)

著者名 年. 『本のタイトル』出版社(所在地) p. 総頁数.

書籍の主著者(部分を引用)

著者名 年. 引用記事のタイトル. 『本のタイトル』出版社(所在地) pp. 頁-頁.

書籍の分担著者

分担著者名 年. 引用記事のタイトル. 『本のタイトル』(代表著者名) 出版社(所在地) pp. 頁-頁.

例: Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO). 2009. *Production Yearbook*. Vol. 45.

FAO (Rome) p.120.

Martin, J. P., E. L. Bernard, and R. T. Dubois 2010. Productivity of root and tuber crops in tropical wetland. In: *Plants and People in Asia*. (Moreau, W. C. ed.) Lutetia Academic Press (Paris) pp. 225-230.

Morton, J. F. 1987. Mango. In: *Fruits of Warm Climates*. Julia F. Morton (Miami) pp. 221-239.

西村美彦 2009. 『熱帯アジアにおける作付体系技術』筑波書房(東京) p.175.

西村美彦 2009. 第5章 熱帯の改良作付体系の検討. 『熱帯アジアにおける作付体系技術』筑波書房(東京) pp.127-159.

菅沼浩敏・新田義孝 1992. 食料生産の現状を振り返る. 『100億人時代の地球』(綿貫邦彦編著) 農林統計協会(東京) pp. 131-172.

[iii] ウェブサイト

著者名 年. 文献タイトル. URL (年 月 日確認)

例: FAO 2011. 食料生産. 『FAO統計』[Online] <http://fao.org/20121.en/> (2011年1月12日確認).

鈴木 敬 2012. 熱帯半乾燥地における最小限の灌漑水を用いた持続的農業実践. [Online] <http://www.jstajournal.jp/J.Hort.Trop>. doi: 12.3456/abc-123.

World Health Organization (WHO) 2012. Chapter 1. Guideline for drinking-water quality. In: *World Situation for Water Management*. pp.5-12. [Online] http://www.who.int/water_sanitation_health.pdf (browsed on May 15, 2012)

短報について

短報では雑誌に掲載された論文のタイトルは省略する(以下に例). 本のタイトルは省略しない.

[i] 学術雑誌・定期刊行物・要旨集など

Nguyen, T. V. 2009. Proceedings of the 13th Symposium on Fruit Production in the Mekong Delta. Hue University (Vietnam) Dec. 15-18, 2008. pp.10-12. (in Vietnamese with French summary)

Richter, M., H. George, and G. W. Turner 2012. *Jpn. J. Trop. Agr.* **5**: 233-238.

Williams, A. L., C. Johnson, and J. Smith 2012. *Trop. Agr. Develop.* **45**: (in press)

Yamada, T., T. Endo, and I. W. Harper 2012a. *Hawaii Agr. Exp. St. Tech. Bull.* **179**: 1134-1142.

山田太郎・田中一郎 2011. *熱帯農業研究* **33**: 54-57.

山田太郎・田中一郎・I. W. Harper 2012b. *日本食品工業学会誌* **40**: 32-33.

図, 表および写真

図, 表, 写真, および組写真によるプレートは1頁に一つとする。番号をつけ、表は表1. または Table 1. などと表記し、図は図2. または Fig. 2. のように表記する。本文中では“表2”のように表記し、図は“図2”のような表記とする。表の題は表の上に、注などは表の下に記入し、末尾にピリオドをつける。図の題、注などは図の下に記入し、末尾にピリオドをつける。補足的な説明は図表の下に続ける。図、表の表記を英語で作成してもよい。表には縦罫を入れない。表の最上位線は二重線とする。図の目盛は原則として内側につける。図と写真は鮮明なものに限る。そのまま印刷できない不鮮明なものは受け付けない。

B. シンポジウム講演要旨、研究集会講演要旨、学会賞・ 磯賞受賞特別講演要旨、海外情報および書評の作成要領

[1] ページ設定

A[1] に従う。

[2] 原稿の構成

シンポジウム講演要旨の構成

シンポジウム講演要旨は司会者またはコーディネーターによる趣旨説明と個別演者による分担執筆部分からなる。最後に総合討論および総括をつけることができる。

I. 「司会者またはコーディネーターによる趣旨説明」には、太字でシンポジウム全体の課題名と英文の課題名、司会者またはコーディネーターの所属と名前、本文の順で書く。全体の課題名は「シンポジウム： 」としてはじめる。本文ではシンポジウムの目的が背景や意義とともに説明され、個別演者による各講演の紹介が含まれるものとする。趣旨説明は1頁とする。

II. 「個別演者による分担執筆部分」には、個別講演の演題、講演者の名前、所属機関名と所在地、キーワード、英文タイトル、ローマ字による氏名と所属、英文 Keywords、本文の順に書き、最後に引用文献リストをつける。英語による講演は英文で書いてよい。

研究集会講演および学会賞、磯賞特別講演要旨の構成

研究集会講演要旨は個別演者による分担執筆によって構成される。原則として司会者による趣旨説明はつけない。「個別演者による分担執筆部分」には、タイトル（研究集会の課題名「研究集会：-課題名-」のあと改行して個別講演の表題を書く）、著者名、所属機関名と所在地、キーワード、英文タイトル、ローマ字による氏名と所属、英文 Keywords、本文の順に書き、最後に引用文献リストをつける。1頁目の欄外に日本熱帯農業学会第何回研究集会（タイトル、開催日、開催地）、司会者の氏名を書く。英語による講演は原稿を英文で書いてよい。学会賞、磯賞特別講演要旨にはタイトル（「○○賞受賞記念講演要旨：-課題名-」）、著者名、所属機関名と所在地、キーワード、英文タイトル、ローマ字による氏名と所属、英文 Keywords、本文の順にする。英語による講演は原稿を英文で書いてよい。

タイトル

表題は十分に内容が分かるようにかつ簡潔に書く。タイトルは太字、英文では前置詞と接続詞を除く単語の頭文字を大文字にする。

著者名

和文では姓名の順。著者が2名以上の場合には「・」で区別する。ローマ字では名姓の順。姓はイニシャルの大文字に続けて小型英大文字で表記する。著者が2名の場合は and でつなぐ。3名以上の場合にはコンマ「,」で区切り、最後の著者名の前に and を入れる。

所属機関名と所在地

所属機関名のあと一字あけて郵便番号と住所の順に記す。ローマ字ではイタリック体とし、所属機関名、所在地、郵便番号、国名の順に記す。

キーワード

6語以内。コンマで区切り、五十音順。ローマ字で始まるキーワードは日本語の後にアルファベット順に配列する。英文 Keywords は頭文字を大文字にしてアルファベット順に配列する。表題に含まれない単語が望ましい。

見出しの書式

大項目は中央寄せ太字、さらに項目を設ける場合は左寄せ太字とする。

本文

論文の内容によっては必ずしも緒言・実験材料および方法・結果・考察の構成によらなくてもよい。動植物名には標準和名を用い、学名は国際命名規約に依拠してイタリックで示す。英語以外の現地語方名などは小文字イタリックで表記する。物質名を省略して表記する場合には初出箇所正式名称を示す。

単位

Aの単位の表記に従う。

引用文献

Aの引用文献の表記に従う。

図、表および写真

Aの図表および写真の表記に従う。

書評の構成

書評についてはタイトル（書評：書籍名）のあと改行して著者名、出版社、総ページ、発行年月を記す。改行し書評本文を始める。本文最後に改行し（ ）内に書評者の所属と氏名を記す。

付表 SI 単位について

SI 単 位 記 号

種類	単位記号 [定義]
長さ	m
質量	kg
時間	s
力	N [kg・m・s ⁻²]
圧力、応力	Pa [Nm ⁻² =kg・m ⁻¹ ・s ⁻²]
物質の量	mol
エネルギー	J [Nm=kg・m ² ・s ⁻²]
仕事率	W [Js ⁻¹ =VA]
温度	K [273.15°C = 0 K]
平面角	rad
立体角	sr
電流	A
電荷	C [As]
電位差	V [J(As) ⁻¹]
電気抵抗	Ω [VA]
コンダクタンス	S [AV]
電気容量	F [CV]
磁束	Wb [Vs]
磁束密度	T [Wb・m ⁻²]
インダクタンス	H [Wb・A]
光度	cd
光束	lm [cd・sr]
照度	lx [cd・sr・m ⁻²]
放射能	Bq [s ⁻¹]
吸収線量	Gy [J・kg ⁻¹]
線量当量	Sv [J・kg ⁻¹]

原稿記載例

論文の種別：研究報文
 表題：飼料利用を考えた水田栽培ケナフ (*Hibiscus cannabinus* L.) の生育に及ぼす異なる灌漑条件の影響
 欄外見出し：飼料利用水田栽培ケナフへの灌漑条件の影響

5 志水勝好^{1*}・柴山美智子²・石川尚人¹
¹筑波大学生命環境系 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
²筑波大学大学院生命環境科学研究科 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
 *連絡著者：shimizu.katsuyosh.gm@u.tsukuba.ac.jp

要約

10 ケナフ (*Hibiscus cannabinus* L.) は水田で栽培できる作物の一種であるが湛水ストレスは・・・・・・る場合最も有効と考えられた。
 キーワード：慣行水田栽培，中期間湛水，畑地栽培，無湛水，LER

15 Effects of Irrigation Methods in Paddy Fields on the Growth and Cultivation of Kenaf (*Hibiscus cannabinus* L.) As a Forage Use.
 Katsuyoshi SHIMIZU^{1*}, Michiko SHIBAYAMA², and Naoto ISHIKAWA¹
¹Faculty of Life and Environmental Sciences, Univ. of Tsukuba, 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8572, Japan
²Graduate School of Life and Environmental Science, Univ. of
 20 Tsukuba, 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8572, Japan

Abstract

25 Kenaf (*Hibiscus cannabinus* L.) is one of the crops that can be cultivated in paddy field. However,cultivation which was flooding in young plants period (58-104DAS) than upland field ..

-1-

改ページ

緒言

5 ケナフはアフリカ原産のアオイ科フヨウ属の一年生の草本で，茎の靱皮繊維が発達するため，木材パルプの代替材としての利用が進められている。・・・・・・
 ..

実験材料および方法

10 ケナフ品種は・・・・・・
 ..